

# 北海道医歌人会詠草



Heaven's vengeance is slow but sure!

天網恢々疎にしてもらさず 札幌 山口 康徳

春來り頑固なる雪のとけ半月湖面に羊蹄山の英姿きらめく  
悪しき奴いかに巧みに逃ぐるとも天の投網は追ひて捉ふる  
うっとうしき負いたる衣服軽くなり新政権は清氣満々  
地をおおう雪おもむろにとけにけり天の陽ざしをまともに受けて  
眠りぬし虫も氣配をさとれるや降りそそがるる春の氣配を

春の豪雪 札幌 古屋 統

雪の街に立往生の我が車近隣寄り来て助け給える  
サイドミラー見つバックの日暮れ時過信のハンドル雪にのめり込む  
挨拶の憶えなき人ワゴンよりロープ取付けわが車牽く  
あくる日の妻の役割菓子折を携けて町内礼廻りする  
雪深き街に均しく軒連ね淡き行き交いなお絆あり

我がゴルフ人生 美唄 吉村 誠治

神棚にボール四個を供えおく親子四人が果せしホールインワン  
イーグルを果せしボールを神棚に供えて古稀の健康を謝す  
金婚をゴルフコンペで祝ひたり四組となる美唄大会  
年毎にラウンド数は減り行きて痛めし膝は今日もうざけり  
願ひたるエージシユートは夢となる何時しか我は八十五才

ナツツバキ 札幌 浜島 泉

小粒なる冬芽結びつナツツバキ休みるるにや備へつるにや  
イタドリに枯れて倒れて重なりて隙間に生ふるピンクの新芽  
街路樹の落ち葉を集め初心者へ示す素材の押し葉に仕立つ  
人影の薄き家なり雪積り通ふ道なく春來るを待つ  
点描の絵画の如き趣きに山の輝き雲間の日ざし

蟬しぐれ 釧路 児玉 昌彦

小学校・卒業六十五年目で最後となった同窓の集い  
語り合えばむかし懐し時を越え昭和初頭の子どもに返る  
もの心ついた頃から戦争の中で育った焼け跡世代  
空襲と栄養失調・病越えこの齢までもよくぞ生きたり  
結婚はしなかったけれどお互いに憎からぬ仲幼なじみは

新年会 旭川 稻積 文子

白雪姫年男年女に囲まれて元氣な王子は九十六才  
年男年女の寸劇で生れて初めて姫と呼ばれつ  
閉め忘れた窓辺で葉枯れし君子蘭茎高く満開に花咲き誇る  
過酷なる環境に耐え生きのびて君子蘭は一斉に花咲く  
空白の六十年が過ぎた今純子さんは茶道にいそむ

残雪 江別 三宅 浩次

残雪の氷り割りする老人は一人住まいの病持ちとか  
異常さは観測以来の積雪にただ立ち尽くす老いたる人よ  
一軒家からマンションへと移った友除雪がつかいという理由から  
残雪は街では汚れ田舎では初雪のまま変わらぬ白さ  
西空の山稜のかなた余市岳この一山だけ残雪白く